

8月度座談会

四条金吾殿御返事

* * 地区

背景と大意

- 建治2年 55才 在・身延
- 対告衆：四条金吾
- 別名：衆生所遊樂御書
- 金吾は主君・同僚から迫害・攻撃
- 題目を唱える以外に真の遊樂なし
- 苦難のない人生はあり得ない
- 苦難の時も強き唱題で幸福を開け

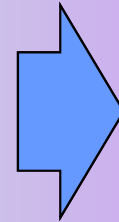
苦悩と遊樂

苦をば**苦**と覚り



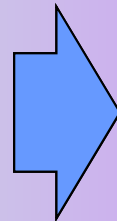
覚悟・境涯

樂をば**樂**とひらき



感謝・報恩

苦樂ともに
思い合わせ

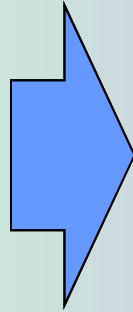


生死即涅槃
仏の境涯

南無妙法蓮華經とうち唱え

自受法楽

自ら法楽
を受く



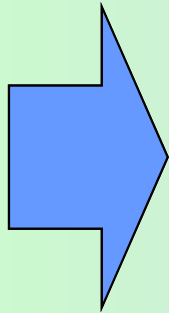
自身で功德を享受
幸福の人生を開く

悩みがあるからこそ、成長できる
苦難の時こそ唱題。道は必ず開く

難を乗り越える信心
煩惱即菩提、九界即仏界

いよいよ強盛の信力

強盛の信力



最大の敵は**弱き自身**
宿命転換の時と捉えよ

広宣流布の大願に立ち
“**唱題第一**”で現実に**勝利**

指導から

- **信心**で突破できない行き詰まりなど、絶対にないのだ。
- **信は力**です、人間のもつ**最強**の**エネルギー**なのです。

苦楽ともに思い合わせ
ゆるぎない自身を築け